

# よりよい菊川地域をめざして

～この地域に育ってよかったと言えるように～

【周南市 菊川中学校区】

## 地域の概要

菊川中学校区は周南市の西寄り、富田川沿いに位置します。山に囲まれた自然豊かな所で、市街地にも近く、住みやすい地域です。地域の方は学校に対して大変協力的で、特に子どもたちの主体性を尊重し、様々な活動の場を提供していただきます。昨年度末で四熊小学校が休校となり、校区内の小学校は菊川小学校1校のみとなりました。

人口	8,006人	
世帯数	3,206世帯	
対象校及び 児童生徒数	菊川中学校	201人
	菊川小学校	449人

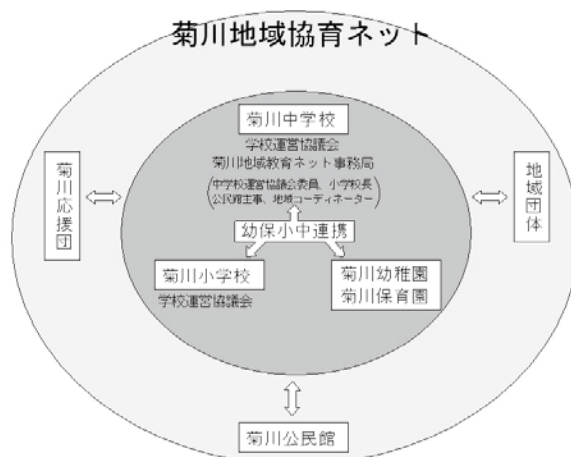
## 組織の内容

昨年度、小学校の校長を含む菊川中学校の学校運営協議会が「菊川地域協育ネット」の推進母体を兼ね、菊川中学校が事務局として連絡調整するという形で「地域協育ネット」を組織しました。

校区内の学校・園は、菊川中学校、菊川小学校、菊川幼稚園、菊川保育園の四つで、各校・園の管理職による「紫山会」、PTA役員（OBを含む）による「菊風会」、各校・園間の連携協議会などを軸に、幼保小中がしっかり連携しています。

また、地域には自治会や老人クラブなどの団体と地域の方で組織する「住みよい菊川を作る会」や、各校が募集して組織した「菊川応援団」などがあり、様々な活動を行いながら学校・園の支援もしていただいています。

今年度は、統括コーディネーターを地域の方（中学校の保護者）にお願いし、公民館主事と協力しながら、学校・園・地域の連絡調整を精力的にいただいています。



## 特色・重点的な取組

### 学校支援・地域貢献

地域の方に授業における支援や、環境整備、登下校時の見守り等の学校支援をしていただいています。また、主に中学生による地域貢献として「菊川まつり」における総合司会やブースの運営、川上ダムの清掃、小学校遊具のペンキ塗りなどに加え、今年度から幼稚園・保育所の夏祭りの手伝いを行っています。これらの地域貢献では、中学生が主体的に関わる場面もあり、生徒もやりがいを感じています。

### 「子ども本音会議」

今年度の特色ある取組として「子ども本音会議」があげられます。これは、小・中学校運営協議会の合同研修の一環として行ったもので、よりよい菊川にするために子ども（中学生）と大人（学校運営協議会委員）とが本音で話し合うというものです。中学生や地域の方への事前アンケートを基に話し合いを行い、活発な意見交換がなされました。その中で子どもと大人のそれぞれの思いが微妙に異なるケースがあり、場合によっては大きな行き違いになる可能性もありましたが、この話し合いによって相互理解を深めることができました。今後、更にいろいろな場面で子どもたちの意見を聞く場を設定していきたいと考えています。



子ども本音会議

## 主な活動の紹介

### 菊川中学校

- ・菊川応援団の活用（地域学習における外部講師、草刈り・ツツジのせん定など）
- ・中学生の地域貢献（菊川まつりの運営、川上ダム清掃など）



幼稚園夏祭りボランティア



小学校遊具のペンキ塗り

### 菊川小学校

- ・地域訪問（介護施設訪問、地域探検など）
- ・地域人材の活用（授業ボランティア、登下校の見守りなど）
- ・学校運営協議会の3プロジェクト（学習部、生活部、健康部）による企画・運営



平和学習（菊川小）



川上ダム清掃（菊川中）

### 小中連携

- ・合同研修会（教職員合同研修会、学校運営協議会合同研修会など）
- ・児童生徒の交流（生徒による学校説明会、授業・部活動見学、「心の先生事業」の共同実施、小学校遊具のペンキ塗りなど）
- ・共通のチャレンジ目標（「あいさつ七つのレベル」、「立腰」指導など）

### 幼保小連携

- ・児童園児の交流（幼保小交流学習会、給食体験など）、園への授業参観、園からの授業参観

### 幼保中連携

- ・夏祭りボランティア、家庭科保育実習

### 地域コーディネーター

- ・地域コーディネーターによる各校・園・地域の行事予定を記載したカレンダーの作成（毎月）

## 成果と課題

昨年度、各校ともコミュニティ・スクールとしての活動が軌道に乗り、「地域協育ネット」の視点から各活動を見直したことで、地域全体の一体感が高まりました。今年度は「子ども本音会議」を開催するなど、子どもにしっかり考えさせ、「地域をよくしていこう」という意識を主体的にもたせる取組を行いました。まだまだ第一歩を踏み出したばかりですが、大きな手応えを感じています。

地域人材による学校支援がすっかり定着し、各校とも円滑な学校運営が行われています。しかし、各校の人材データを地域全体で共有し、すべての学校・園を支援できる体制ができれば、相互の連携も深まり、人材データ登録者の活躍の場も増えることから、今年度中に「菊川応援団」を再編成する予定です。

## 今後の取組

菊川地区は地域の方が大変協力的ですが、その大きな特徴は「子どもが自分で考え、主体性をもって活躍できる場を与えてくださる。」という点です。このような包容力のある地域の特性を生かし、「子ども本音会議」で踏み出した第一歩を様々な場面で具体化していきたいと考えています。そして、子どもたちがこの地域で「地域の皆さんに見守られている。」という実感をもって成長し、「この地域に育ってよかった。」と言えるように、幼保小中と地域がさらに連携して「地域協育ネット」を推進していきたいと考えています。